

洞爺湖町の小中学校における
子どもと学校のあり方についての提言

平成25年1月

洞爺湖町子どもと学校のあり方検討委員会

◆はじめに

少子高齢化に伴う児童生徒数の減少は全国的に進行しており、洞爺湖町においてはその進行はより厳しいものがある。

集団による活動が基本にある学校教育において、児童生徒数の減少や学校の小規模校化は教育環境、学校運営に様々な問題が生じることにつながる。

学習面や学校活動の充実を図り、子どもたちにとってより良い教育環境づくりのためには、洞爺湖町の現状を見据えたうえでの適正配置を検討していく必要がある。

また、町内の各学校施設では老朽化が進み、その対策も検討の時期にある。さらには、施設安全性確保のための耐震化が必要な学校施設もある。一昨年の東日本大震災は多くの犠牲を出す未曾有の大災害となり、いまだに多くの方々の生活が困難な状況にある。その中で、いわゆる「釜石の奇跡」に代表されるように、「防災教育」の大切さが改めて強調されている。様々な災害が起こりうるなかで、とりわけ当町は数十年ごとに噴火する有珠山のふもとにあり、防災意識をさらに高める必要があるのはいうまでもない。学校施設は、災害時には避難施設としても活用されることから、安全性の確保は早急に行う必要がある。

本検討委員会では、将来を担う子どもたちにより良い教育条件、教育環境の整備について、今後の児童生徒数の推計を見据えながら、適正配置の前提となる小中学校の適正規模等について検討を進めた。

保護者、地域住民、学校関係者の各委員から活発な意見が出され、様々な角度からの検討の末、一定の基準づくりを行うことができた。

今後、この基準をもとに町および町教育委員会で適正配置計画策定に取り組むことになると思うが、地域とのしっかりとした議論を踏まえながら進めてほしい。

◆本委員会における検討の方向

町内には3小学校、3中学校があるが、本委員会において個別の学校の具体的な配置を検討・議論し、基本方向を提言としてまとめることは困難である。そのため、全町に共通する「より望ましい学校のあり方」の一定の基準づくりを行うこととした。

具体的には、現行の学級編制基準、教職員配置基準等を前提としながら、学級規模、児童生徒数、通学時間、地域事情等のそれぞれについて検討作業を行うこととした。

また、教育環境の安心安全の確保から、施設の老朽化対策、耐震化対策については出来るだけ早期の実施を望むものであるが、財政の効果性、効率性も考える必要があり、適正配置の検討と並行しての検討も進めることとした。

本町のまちづくりの柱となる「洞爺湖町まちづくり総合計画」では、学校教育の充実について「安全で快適な学校教育環境は教育の基盤。施設の老朽化等に伴う耐震化、改築等については、児童・生徒の減少を念頭に入れ、統廃合を含めた多角的な検討を進める必要。」と明記しており、これが検討の基礎となるものであることはいうまでもない。

〔検討の視点〕

学校のあり方における本委員会での成果目標の検討の視点を次のとおりとした。

- ① 学校種別の視点
- ② 検討対象校の視点
- ③ 学校規模の視点(学級数・児童生徒数)
- ④ 通学時間の視点
- ⑤ 地域性の視点
- ⑥ 施設安全性の視点

◆学校教育環境を取り巻く現状と課題

＜児童生徒数の推移＞

虻田本町地区、洞爺湖温泉地区及び洞爺地区に小学校、中学校が各１校あり、全部で６校の小中学校がある。児童生徒数は人口の減少に比例して減少しており、平成１８年の町村合併後も人口減は進んでいる状況にある。

平成２４年度児童生徒数を平成元年度と比較してみると、虻田本町地区及び洞爺地区でほぼ半減しており、洞爺湖温泉地区では、ほぼ４分の１まで減少した。これは平成１２年の有珠山噴火災害の影響が大きいものと推察する。

ここ数年は大幅な減少はないが、総じて減少傾向は止まらない。今後の推移をみても若干増となる年はあっても総体としては横ばいから減少が見込まれるところである。

こうした中、各学年の学級を編制する児童生徒数が少なくなり、一部の小学校では複式学級編制を余儀なくされており、中学校においても１学級１０人以下という状況もある。

児童生徒数及び学級数の推移

＜小学校＞

(５月１日現在)

		H元 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
虻田小	児童数	608	323	304	300	283	283	272	259	260	245	231
	学級数	18	12	11	11	10	10	9	9	10	10	10
温泉小	児童数	197	55	55	43	46	47	55	51	55	55	53
	学級数	6	5	5	5	4	5	4	4	5	5	6
とうや 小	児童数	132	75	78	73	67	68	61	64	59	63	63
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
計	児童数	937	453	437	416	396	398	388	374	374	363	347
	学級数	30	23	22	22	20	21	19	19	21	21	22

< 中学校 >

		H元 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
虻田中	生徒数	370	181	165	159	162	165	156	146	128	145	133
	学級数	10	6	6	6	6	6	6	6	5	5	4
温泉中	生徒数	131	32	30	29	25	27	20	25	24	27	21
	学級数	5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
洞爺中	生徒数	87	45	35	36	29	32	31	37	39	31	30
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
計	生徒数	654	258	230	224	216	224	207	208	191	203	184
	学級数	18	12	12	12	12	12	12	12	11	11	10

※H24までは確定値。H25以降は24年度からスライド及び住民基本台帳から算出

※学級数は、普通学級数（特別支援学級は除く）

※統廃合となった学校の状況は記載していない

※とうや小の平成元年度は洞爺小学校の数値を記載

学級編制基準	
小学校:	40人以下(H23年度入学者から35人以下)
	2学年16人以下で複式学級(第1学年を含む場合は8人以下)
中学校:	40人以下
	2学年8人以下で複式学級

＜少人数学校・少人数学級の課題＞

小規模校のメリットとして、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導が行いやすい、全学年での活動が多く異学年交流が大切にされる、浸透し始めてきている発達障害等の児童生徒を区別しないインクルーシブ教育が進めやすいなどが上げられる。複式学級においては、多くの自学自習の時間により自ら学び考える力の育成を図るなどもある。

デメリットとしては、大きな集団での社会的経験の機会が少なく、グループ活動も固定化される、競争意識が芽生えにくく切磋琢磨の機会が小さくなるなどがある。中学校にあつては、部活動においての団体競技が難しくなるなどの影響も課題となる。

また、一定規模以下の学級数になると、教員数も少なくなり、特に中学校においては教科担任の確保が出来なくなり、教科指導にも支障が生じることが考えられる。

道費負担教職員定数の配置基準

（平成３年北海道教育委員会決定から一部抜粋）

（１）校長・教頭・一般教諭の配置

学級数		1		2	3		4	5	6	
配置数	小学校	2人		3人	児童数		6人	7人	児童数	
					15人以下	16人以上			100人以下	100人以上
					4人	5人			8人	9人
	中学校	併置校	単置校	6人	9人		9人	10人	11人	
		3人	4人							

※教頭の配置基準：３学級以上の学校（児童数１５人以下の場合は、学級担任を兼務）

（２）養護教諭・事務職員の配置基準

①養護教諭：４学級以上の小中学校または３学級で児童生徒数１１人以上の小学校・中学校に１人配置（小中併置校では児童生徒の合計が１１人以上で１人配置）

②事務職員：４学級以上の小中学校または３学級で児童生徒数１５人以上の小学校・中学校に１人配置（小中併置校では児童生徒の合計が１５人以上で１人配置）

＜学校施設の老朽化及び未耐震状況＞

洞爺湖温泉小学校は平成12年の有珠山噴火災害で被災し、今後も予想される噴火災害を避けることを考慮し、平成14年に洞爺湖温泉地区から月浦地区に移転新築した。その他の施設は全て昭和に改築されたもので老朽化が進んできている。特に、とうや小学校は環境的にはある程度維持されているが、昭和42年の改築後45年ほどが経過し、鉄筋コンクリート造りの標準的な耐用年数の48年に迫っている。また、虻田中学校も昭和42年から昭和50年にかけて年次的に改築されたもので、維持補修はしているものの老朽化は著しい状況にある。

さらに、とうや小学校、虻田中学校及び洞爺湖温泉中学校は体育館を含めて未耐震化施設であり、町は、耐震化計画を定めて順次耐震化工事を実施している。

また、施設の安全性を考える上では、立地の安全性を考慮する必要がある。有珠山災害はその歴史からいって、優先的に考えなければならないことであり、その被害想定範囲を考慮する必要がある。しかし、近年は東日本大震災に伴う津波災害などもあり、様々な災害の想定区域にも十分な注意を払う必要がある。

しかしながら、施設の改築、移転等には多額の費用が必要であり、町の財政状況も健全化団体を脱却したばかりであり、十分な財政基盤がない中では、効果性、効率性と町政における財政投入のバランスもしっかりと考慮しなければならない。

各学校の施設及び敷地の状況							
		虻田小	温泉小	とうや小	虻田中	温泉中	洞爺中
敷地面積(㎡)		31,062	28,113	16,722	36,925	34,779	24,305
校舎	面積(㎡)	5,004	2,940	1,380	3,831	2,833	2,140
	構造/階	RC/2	RC/2	RC/2	RC/2	RC/3	RC/2
	建設年	S61	H14	S42	S42～S50	S56	S56
	耐震状況	A	A	B	B	B	A
体育館	面積(㎡)	965	1,036	539	770	955	1,125
	構造/階	S/1	RC/2	S/1	S/1	S/2	S/2
	建設年	S56	H14	S42	S48	S56	S57
	耐震状況	A	A	C	B	C	A
グラウンド面積(㎡)		11,527	15,248	9,917	20,940	15,357	12,324

※ 構造/階:RCは鉄筋コンクリート造、Sは鉄骨

※ 建設年:複数年の場合は、「最も古い建設年～最も新しい建設年」

※ 耐震状況:Aは耐震基準又は同等、CはIs値0.3未満、BはA・C以外

◆適正配置を考える視点

具体的な検討にあたっては、「育てたい子ども像の共有」「どのような学校であるべきか」を目標に、子どもたちにとってより望ましい学校について、いくつかの視点に分けて基準づくり等の検討を進めた。

1. 学校種別の視点

学校教育法における義務教育の教育目標は、以下に要約されるように小中学校で明確な違いがある。

【小学校教育】

社会で健全に生きていく上で最低限必要なこと、学ぶことの楽しさや社会性などを身につける。

【中学校教育】

社会生活に必要な基礎的知識と技能、公正な判断力を養い、個性に応じて将来の進路を選択する能力を身につける。

このことから、

「小学校、中学校を区分してそれぞれ検討」

として検討することとした。

2. 検討対象校の視点

町村合併前に、虻田地区及び洞爺地区において、それぞれ小学校で統廃合が行われた事情があるが、現状において今回の検討から除く、特認校等の特殊事情を有する学校はないと判断した。

「町内全6校を検討対象校」

として検討することとした。

3. 学級数の視点

普通学級の学級数を基準とする。

それぞれの基準を「望ましい規模」「原則、存続する規模」「原則、統廃合を検討する規模」として判断することとした。

【国の標準学級】

- ・小学校 12～18学級（1学年2～3学級）
- ・中学校 12～18学級（1学年4～6学級）

国の標準学級は、当町の規模には馴染まないものであり、当町の現状を考慮しながら現実的な基準を検討し、次のとおりとした。

【小学校】

- ・ 望ましい学級規模 12学級（各学年2学級）
クラス替えが可能で、多様な教育環境を構築することができる。
- ・ 原則として存続する学級規模 6学級（各学年1学級）
クラス替えはできないが、当町の現状と今後の見込みから存続する規模とした。
- ・ 原則として統廃合を検討する規模 ... 5学級以下（複式学級配置校）
複式学級のメリットもあるが、より望ましい環境に向けて検討が必要な規模とした。

【中学校】

- ・ 望ましい学級規模 6学級（各学年2学級）
クラス替えが可能で、部活動を含め多様な教育環境を構築することができる。
- ・ 原則として存続する学級規模 3学級（各学年1学級）
クラス替えはできないが、当町の現状と今後の見込みから存続する規模とした。
しかし、生徒数がある程度少なくとも3学級配置されることから、グループ活動等を考慮した生徒数も判断材料となる。
- ・ 原則として統廃合を検討する規模 ... 2学級以下（複式学級配置校）
複式学級のメリットもあるが、より望ましい環境に向けて検討が必要な規模とした。

4. 児童生徒数の視点

小学校では複式学級配置基準が2学年（1年生を除く）で16名以下となっており、学校としても6学年あるため、ある程度の児童数は確保できる。

しかし、中学校においては複式学級配置基準が2学年8名以下となっている。仮に、1年生4名、2年生5名、3年生4名の合計13名でも3学級となるが、集団活動、学校行事、部活動等に支障があり、生徒間の人間関係や切磋琢磨する環境に課題がでることになる。また、極端に児童生徒数が少なくなる場合、教員だけでなく、事務職員、養護教員の配置もできなくなり、学校運営にも大きな影響がでる。

ここでは、

「学級規模検討に合わせて、児童生徒数の教育環境に与える影響も考慮する」
ことが大切であるとし、明確な児童生徒数の基準を設けないこととした。

5. 通学時間の視点

通学については、特定の学校を基点とすることは検討せず、基本的な目安を定めることとした。

小学校はより短時間が望ましいが、現状のスクールバス運行状況を考慮した。

今後は、地域の状況によりこの通学基準によらない柔軟な対応が必要となる場面がでることも想定される。

- 小学校 4 5 分程度（スクールバス利用）
- 中学校 4 5 分程度（スクールバス利用）

スクールバス運行状況

●運行時間等

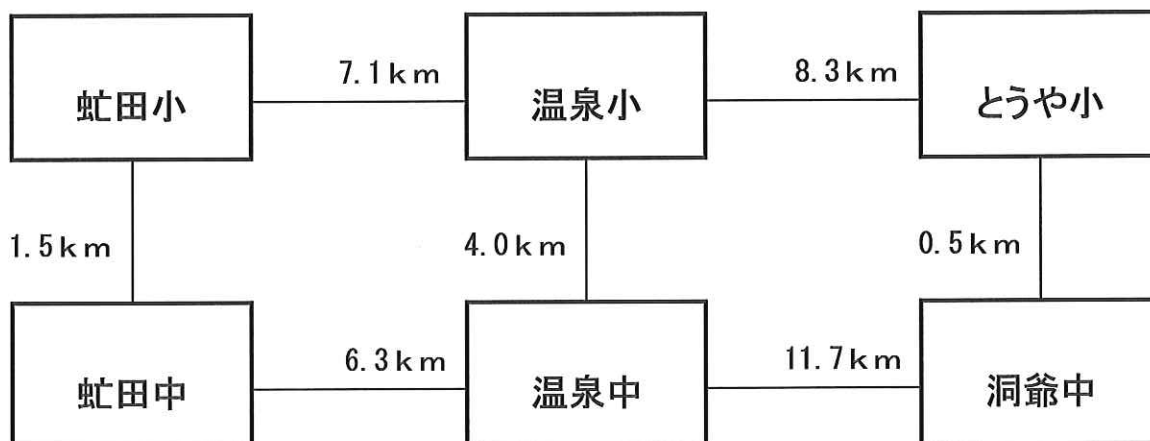
平成 24 年度

学校名	区 域	時間 (分)	定員 (名)	利用者数(名)		
				小学校	中学校	高校
温泉小	文化センター…温小	15	55	29		
温泉小(下校便)	〃	15	45	29		
温泉小・温泉中	花和…温小…温中	25	21	4	8	
とうや小・洞爺中	香川…成香…洞中…と小	40	45	11	7	2
とうや小・洞爺中	富丘…大原…と小…洞中	45	28	13	4	2
とうや小・洞爺中	岩屋…と小	20	8	3	2	

●標準運行数(下校)

学校名	月		火		水		木		金	
温泉小	2 便	14:30	2 便	14:30	2 便	14:30	2 便	14:30	2 便	13:20
		15:20		15:20		15:20		15:20		14:30
温泉中	2 便	15:50	2 便	15:50	2 便	15:50	2 便	14:50	2 便	15:50
		18:30		18:30		18:30		18:30		18:30
とうや小	2 便	14:50	3 便	14:50	4 便	13:45	2 便	14:50	3 便	14:50
		16:00		16:00		14:50		16:00		16:00
				18:00		16:00				18:00
						18:00				
洞爺中	1 便	16:00	2 便	16:00	2 便	16:00	2 便	16:00	2 便	16:00
				18:00		18:00		18:00		18:00

●学校間距離



6. 地域性の視点

地域にとって小中学校はコミュニティーの中心である。児童生徒はもちろんのこと、保護者、地域住民、各学校それぞれの思いがある。学校規模、学級規模などの数的基準で捉えられないものが多い。

教育は地域からの支えが大切であることを認識したうえで、適正配置の検討は進めなければならない。そのうえで、町、町教育委員会が統合しなければ教育上の効果が低下していくという方向を持つ場合、地域へのしっかりとした説明と理解を求める姿勢が必要である。その際には、児童生徒の保護者、就学前の子どもの保護者、地域住民の声を聞くことが大切である。

「地域事情を十分に考慮し、地域の声を尊重する」

として、行政と地域間の理解を促すこととした。

7. 施設整備の視点

学校施設の安全性の確保は常に学校経営の前提としてある。老朽化が進む学校施設の中には、改築等を進めるべき学校もあり、早期の対策が望まれる。また、計画を持って進めている耐震化工事についても出来るだけ早期の工事を望む。

しかし、現存の施設の改築等は重要なことではあるものの、多額の費用を必要とする事業であり、町の政策事業でもある。これまで検討してきたように、少子化に伴う児童生徒数の減少は学校施設の適正配置を避けて通ることはできない問題となっている。

学校施設の整備と適正配置。非常に難しい問題ではあるが、コストパフォーマンスを無視することなく、より良い教育環境づくりを進めていくことが必要である。

「安全のための施設確保、適正配置、財政の適正運用を総合的に検討」

として、効果性ととともに効率性も検討する必要性を示すこととした。

◆まとめ

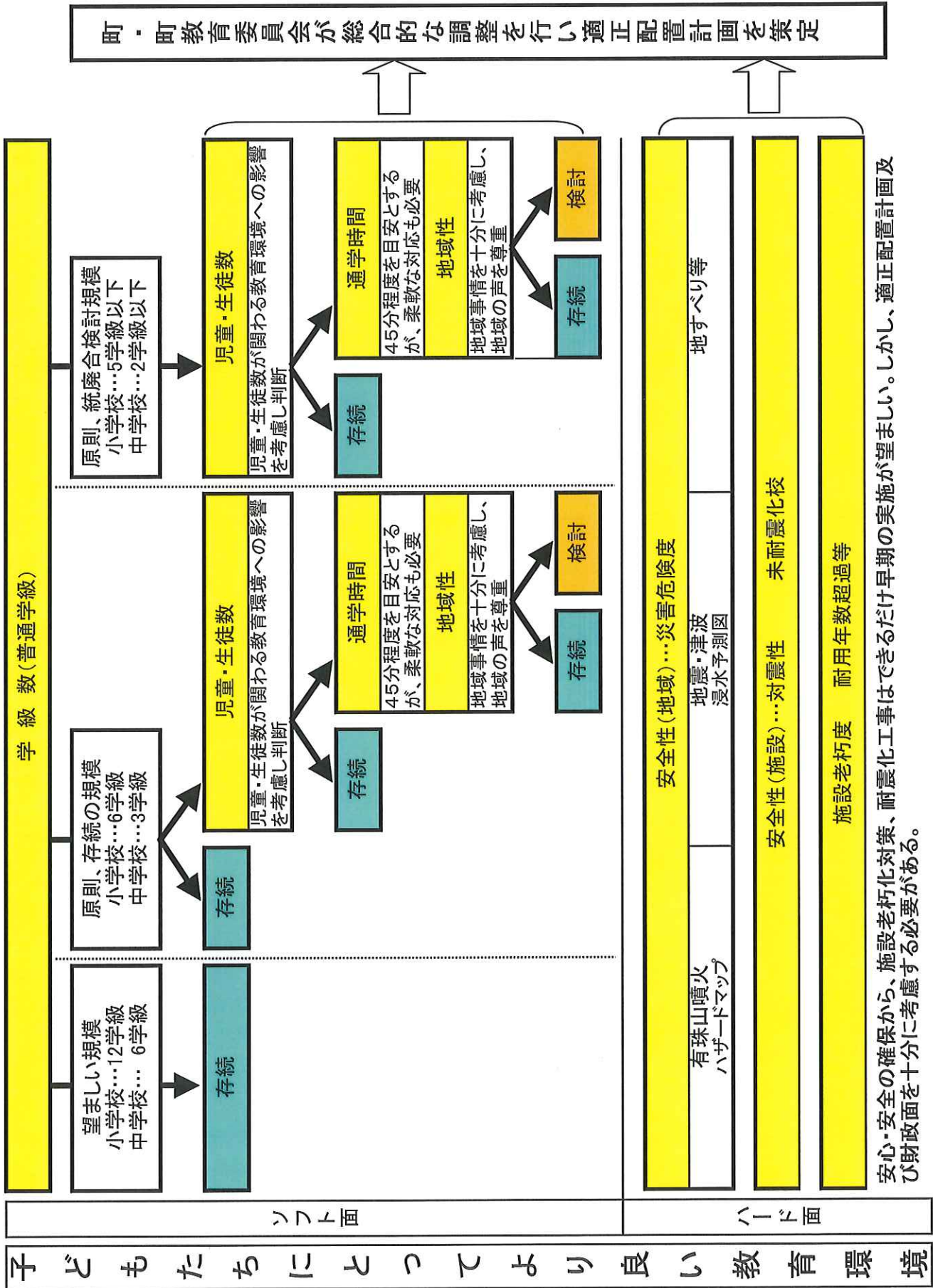
「子どもたちにとってより良い教育環境」をテーマに学校のあり方のいくつかの基準等を検討し、一定の基準づくりはできた。フローチャートとして表すと別紙のようなイメージになる。

4回の委員会を通じて、それぞれの立場の委員から様々な意見が出された。基準としてまとめきれない意見もあり、会議の中で出された主なものを参考意見として掲載することとした。

行政においては、本委員会の提言を踏まえ、より効果的な、効率的な手法等について検討し実施をしていくことで、次代を支える子どもたちが誇りを持てる町として、バランスある発展を推進していただくことを希望する。

また、昨年末に発足した新政権は教育改革を最重要課題の一つとしている。教育委員会制度、学制など多くの教育制度を見直す考えが示されている。国の今後の動向も十分見極めながら、町教育行政を推進していくことを期待する。

(別紙 イメージ図)



◆参考意見

【学級数について】

- ・適正規模といえば、洞爺湖町では小学校でも中学校でも1学年2学級辺りが適正ではないかなと思います。クラス替えができるとかを考えるとそうなるのかなと思います。
- ・単式学級を基本として考えるかどうかというところから検討するのが良いのではと思います。
- ・中学校は別として、できるだけ地域に1つ小学校があるのが望ましいかたちではないかなと思います。小学校はもう少しゆとりを持って、地域の考えも取り入れて、ただ単に数字で決めてもらいたくないと思います。
- ・単式か複式か、小学校中学校それぞれの立場での考え方を検討すれば良いのかなと思います。
- ・数から入っていくということに違和感があります。地域の実情等を考えていないかと、数というものに根拠がないと思います。
- ・高学年になってくると、人間関係が難しくなってきます。卒業までその環境が変わらないとストレスを大きくします。クラス替えができるくらいの人数の学校になって欲しい。
- ・親の希望で他の学校に通えるような、臨機応変さが欲しい。
- ・中学校の場合は、複式だと教師の数が足りないとか、部活動ができないとか、根拠が出しやすいと思われます。小学校の場合、単に1学級だから良いということにならないと思います。
- ・小学生はのびのび育てるべき、中学生はとにかく学力が必要だという話を聞きます。小学校は複式でも構わないのではないのでしょうか。
- ・義務教育の目標を見ますと、小学校の場合は単式でなくても十分にねらいは達成できるのではないかなと思います。中学校の場合なかなかそうは行かないので、基礎的な知識や技能を身につけさせるためには、単式の学級で進めて行かなければならないと思います。
- ・統合というとマイナスイメージがありますが、いくつかの学校が集まり、新しい目標を持って今までできなかったことに挑戦していくという夢を持つことも大切なことだと思います。あまりハードルを下げると、現状がいつまでも変わらないことになります。
- ・（3校が統合し）小学校の同級生だと話しがしやすいと思います。地域の交流が生まれ、町が活性化していくと思います。
- ・現実的な対応から統廃合を検討すべき規模について、色々意見が分かれているところだと思いますが、統合するしないは別として、小学校であれば6学級、中学校は3学級以

上でということになるのではないのでしょうか。

- ・複式が悪いということではないと思います。
- ・いいとか悪いとかという話しではなく、どちらが望ましいかということだと思います。
- ・社会性を身に付けさせるためには、ある程度の集団が必要となってきます。
- ・中学校は望ましい規模はわかりますが、過小規模は2にできないだろうと思いますので3になるだろうと。中学校の場合は学級の人数を加味していかなければならないだろうと思います。
- ・3学級16人以上では、校長や教頭等が単独で配置されるという内容ですが、児童側としては複式学級ということになります。先生の配置だけで考える訳にはいかないと思います。
- ・高学年であればある程度対応できるけれど、小学校1年生では、そういったこと（複式の授業）は難しいのではと思います。
- ・年間の授業時間が決まっていて、2学年を先生が半分ずつ教えたとして、その効果というのは充分確保できるかどうか、保護者が心配するところだと思います。
- ・複式の長所というのもあり、児童の人数が少ない為、みとりが良くできて、半分の指導時間しかないということですが、しっかり目が行き届くので、しっかり指導できる状況になります。固定された人間関係でぎすぎすした部分が出てくるといったことは、かえって中途半端に人数が多い方が増えてくるといったことはあります。
- ・少人数であるため、児童同士が解かり合えたり、自然の豊かな場所を求めてわざわざ引越しをしてこられる方もいるので、人数だけで統廃合の対象ということでは、教育活動に携わっている者としては心外な部分もあります。
- ・一般論として、例えば、単式で1クラス10人位の児童であれば、複式と大差ないのでという意見の方もおりますが、児童が教わるべき時間が確保できる状態となっています。その状態より人数がもっと減っていった方がより良いということの説明ができないのではと思います。一般的な保護者は（複式になるということに）不安を持つのではないのでしょうか。
- ・均一な学力の状況であれば、単式校並みのレベルまで持っていけるとはと思いますが、そういう状況は多くないと思われます。
- ・新学習指導要領から、子供たちが自分達で学び合うというようなことが求められてきておりますので、そういう意味では複式のやり方を単式も行うということが、今の流れであると思います。
- ・複式を否定する訳ではありませんが、学年1クラスずつあり、担任の先生がそれぞれ付くということが望ましい環境だと思います。

【児童生徒数について】

- ・教職員が配置されることは、学校運営上大切なことですし、教職員の数が減るということは、児童生徒に影響してくることになると思われます。
- ・率直な気持ちとして、20人切れると苦しいと思われます。
- ・全校生徒20人切ると、全ての面において、支障が出てくると感じます。
- ・全校生徒の規模数を一律に何名ということは、なかなか言えないことかもしれませんが、20という数を継続して確保できないというのであれば、それが1つの目安になってくるのかなとも思います。
- ・小学校が統廃合の検討段階に入ったときには、同じ校区の中学校も同時に考えれば良いのではと思います。
- ・数字を出していくということであれば、何が適正かという判断は難しいと思いますので、今のように小学校が検討される規模になれば、中学校を先に検討していくという意見に賛成です。
- ・人数については、この場で数字が出せないのではと思います。
- ・あの規模ではいきたくないという話しが、PTAの中にもあります。数だけでは割り切れない思いもあり、保護者の気持ちもプラスして入ってくることもあると思います。

【通学時間について】

- ・距離だけでなく停留場所の設定によって、倍近く時間がかかることもあります。常識的な範囲で言えば、45分以内と思います。理想を言えば、小学生では30分以内と思います。
- ・遠方の子が1人となっても統合できないことではなく、地域性も考慮できる考え方で、基本の時間は45分で良いと思います。

【施設整備について】

- ・学校のあり方とリンクして町財政を考え、施設整備を計画的に行っていくことが大事ではないでしょうか。
- ・今ある学校の、どの学校について対応しなければならないかを明確にしなければならないと思います。

【地域性の尊重について】

- ・町村合併の経過、地域住民の小学校や中学校に対する色々な思いがありますので、その辺についても考慮すべきと思います。
- ・(統廃合を検討する場合) 先ず第一に子供を学校に通わせている保護者の考え方。就学前の子供を持つ保護者の考え方は、地域全体の考え方と別にアンケート等を取るべきだと思います。保護者とは分けて、地域の意見を集約してもらいたいと思います。

洞爺湖町子どもと学校のあり方検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 義務教育施設のあり方等に関する課題を検討するため、洞爺湖町子どもと学校のあり方検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(役割)

第2条 委員会は、洞爺湖町立小中学校施設のあり方等に関する課題となる事項について調査検討を行い、今後の方向性等について教育長に提言する。

(組織)

第3条 委員会は、委員12名程度をもって組織する。

2 委員は、児童生徒保護者、自治会関係者、学校関係者その他教育長が適当と認める者のうちから教育長が委嘱する。

(任期等)

第4条 委員の任期は委嘱の日から平成25年3月31日までとする。ただし、提言がまとまった時は、委員を解かれたものと見なす。また、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長1名及び副委員長1名を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は、委員会を総括する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が召集し、委員長が会議の議長となる。

2 前項の規定にかかわらず、第1回目の会議は教育長が召集する。

3 会議は委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は出席委員の過半数をもって決定し可否同数のときは議長の決定するところによる。

(事務局)

第7条 委員会の事務局は、洞爺湖町教育委員会管理課に置く。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は教育長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成24年7月3日から適用する。

洞爺湖町子どもと学校のあり方検討委員会委員名簿

(敬称略)

	氏 名	役 職	備 考
P T A	角田 隆志	虻田小学校 P T A 会長	
	三浦 弘美	洞爺湖温泉小学校 P T A 会長	
	平尾 篤	とうや小学校 P T A 会長	
	佐野 大次	虻田中学校 P T A 会長	
	佐藤 正明	洞爺湖温泉中学校 P T A 会長	
	大廣 美紀子	洞爺中学校 P T A 会長	
自治会	加藤 訓	泉区自治会長	
	福井 政吉	温泉 8 区自治会長	副委員長
	桑原 敏	洞爺町第 2 自治会長	
校長会	名須川 敏雄	虻田中学校長	
	加賀谷真由美	洞爺湖温泉小学校長	
	佐々木 浩治	洞爺中学校長	委員長